

2 家中の窓から見える どの景色も絵のよう。



眺望が移住の決め手になったとご夫妻は話されます。「きっかけは20年くらい前に見た新聞広告でした。森の中に家があつて、とても印象に残ったんです。実際に見に来た時の第一印象も、「こんなところは見たことがない」でした。その感激は入居後10年経った今も変わっていません。我が家から一望できる石狩平野の素晴らしさはもちろん、窓から見える景色はどの季節も本当に美しく、それだけで豊かな気持ちになります。自然が身近にあるので、四季を通じてすごく楽しいです。だから、どこかへ出かけても「やっぱり家が一番いい」と思うことが多いですね。冬は薪ストーブに火を入れて、自然な温かさの中、窓から一面真っしろな白銀の世界を楽しんでいます」。

3 みんなスウェーデンヒルズの子どもたち。



小さなお子さんと暮らすご夫婦は、この街の子育て環境について話してくださいました。「たぶん子どもたちは、リスが通りや庭を駆けるのが当たり前だと思っています(笑)。この街にはリスが普通にいるんです。動物に限らず、いろいろな自然を見て、触れることができるということはとてもいいなと、安心して好奇心を育める環境だと思えます。子どもたちは毎日、街中を広場にしてのびのび。まわりの子どもたちもみんなよく知っていて、よくしてくれるので、勝手に出ていって遊んでいても、まあ大丈夫という安心感があります。街で遊んでいるのはみんなスウェーデンヒルズの子どもたち」という意識を、大人の皆さんも持つてくださっているようで、とても心強いです。通学も、スウェーデンヒルズから小学校、中学校へのスクールバスがあり、子どもたち同士で毎日賑やかに通っています」。

4 どこに行っても長くなる立ち話。 それも楽しい。



奥様が埼玉県出身のご夫婦は「都市部の環境と自然に近い環境、どちらが自分たちに合うのかよく考えた」と話されます。「私たちの場合は、両方住んでみた結果、こちらのほうが合っていたんです。家で過ごす時間が比較的長いので、広い家でゆったり家族と過ごしたかったんですね。自分たちの庭を思い通りにアレンジしたり、どんな花を咲かせようかと時間をかけて楽しむのもこの街ならではの楽しさ。ここではスウェーデンヒルズのことが好きで移り住んできた方ばかり。皆さん自然が好きだし、趣味や考え方もどこか近いところがあります。そのせいか、この街のどこに行っても誰かと会えば、つい立ち話が長くなってしまふ。そんなふうに時間を忘れて話してしまう関係が、とっても楽しいんです」。

札幌の中心部から車で約40分。石狩湾を一望できる丘陵地の変化に富んだ地形と豊かな自然を感じる森に包まれた街、スウェーデンヒルズ。スウェーデンハウスの創設メンバーが掲げた「人が人らしく自然と調和して豊かに暮らす」という理想の街づくりを実現するために、1984年に誕生したスウェーデンハウス発祥の地です。ここには多忙な日々を送る現代が忘れていた、大自然を背景に悠々と日常を楽しむ暮らしがあります。詳しくは www.swedenhills.jp または



話したい ことが たくさん ある街。

スウェーデンヒルズに何うと、どなたのお話もつきることがありません。街のこと、人のこと、自然とのふれあいや住まいについて、それは朗らかに、屈託のない笑顔で語ってくださいませ。2018年2月の雪の降り積もる日、4軒のご家族にインタビューさせていただきました。晴れ晴れとした皆様の表情に、街への深い愛着がそのまま表れているように感じました。



そして夢は叶った
**SWEDEN
HILLS
Dream**

1 馬と一体になって、 銀世界にとけこむ、冬の楽しみ。



スウェーデンヒルズにはど近い石狩川河川敷にある「石狩ホーストレック」。ここは、横浜市からスウェーデンヒルズに移住されたご夫婦が牧場を譲り受けて運営されています。「スキーをきっかけに移住を考え、スウェーデンヒルズに一目惚れしてここに暮らしはじめて21年になります。乗馬との出会いは移住後。縁があつてはじめてたらとどんどのめり込んでいって、トレッキングのガイドを手伝いながら乗馬のスキル、馬の扱い方、育て方を学ぶようになりました。春夏秋冬、どの季節も自然に受けこんでいくのが醍醐味ですね。偶然、野生の動物たちに出会うこともよくあるんです。いくつもの出会い、人とのつながりでスウェーデンヒルズに来て、馬たちとの新しい人生ははまりました。幸せです、こういう生活ができて」。